

HuMA News Letter

**HuMA - イラン地震復興支援活動が完了。
バム市Zone5に新仮設診療所が開所。**



6月から開始されていたジャパン・プラットフォーム支援事業HuMA - イラン南東部(バム)地震復興支援活動は、9月30日にイラン保健省への引渡し及び新仮設診療所開設をもって無事完了しました。(事業経過については次頁参照)

新仮設診療所のオープニングセレモニーでは、総勢約50名の関係者が一同に集り、イラン保健省アバシ先生、イラン市民評議会バム駐在所代表ダリジャニ氏から挨拶があり、日本からは、兵庫県災害医療センター長小澤修一医師(HuMA会員)が鶴飼理事長の代理としてHuMA代表の挨拶をしました。

HuMAの支援活動を当初より応援して頂いたイラン保健省バム地域責任者アバシ先生の挨拶の言葉です。

『この度の地震で病院は全て壊滅的な被害を受けたので、このコネックス供与に心から感謝している。震災直後は援助に来た人の住む所もなく患者の行く所もなかったが、外国人もイラン人も力を合わせてバムをここまでにした。バムの人々も自分達で周りをきれいにし病気が流行らないようよく努力したと思う。HuMAは一生懸命やってくれた。コネックスへの感謝はもちろんだが、心電計の寄付にもっと驚きを感じた。4つのヘルスセンターに心電計があると助かる、と言った自分の言葉を信じて4日で届けてくれた。この感激は一生忘れない。値段はコネックスの十分の一かもしれないが、地元の要請を信頼し尊重してくれたことが本当に嬉しかった。鶴飼先生、Vigen氏を始めHuMAの努力を決して忘れない。ひとりの人間として心から感謝している。』

また、今回のHuMAの活動に事前調整から協力して頂いたテヘラン市民協会バム駐在事務所のダリジャニ氏の挨拶の言葉です。

『6月に事前調査で鶴飼先生がいらした後、HuMAは本当によくやってくれた。ヘルスセンターの設備を作ってくれた事はもちろん、良く使えるようにしてくれた。これをもって市内の13のZoneのうち、最後のZoneがテントから出たわけである。行政官としてではなくひとりの人間として感謝している。日本もイランも地震国であり、再び起きないようにと願うが、もし世界のどこかで災害が起きたら自分達もなにか援助ができるようにしたい。』

今回のHuMA活動は、イラン保健省、WHOや各国NGOと協力・連携を取りながらの支援活動であり、私たちが担当したエリアは13地区の内のたった1つのZone5だけであったが、世界の組織と連携しながらバム市全体の復興・再建計画の一環に携われたことの意義は大きく、今後の活動につながる貴重な経験を積むことができたといえます。



左から、ビゲン氏、アバシ先生、小澤先生、ダリジャニ氏



アバシ先生のスピーチ



ダリジャニ氏のスピーチ

イラン地震復興支援事業の経過:

- 6月13日 鶴飼理事長、調整員出発 (6/20帰国)
- 6月17日 鶴飼理事長、テヘラン市民協議会(バム駐在事務所)ダリジャニ氏間でZone5ヘルスセンター新仮設診療所設置支援事業において合意覚書を交わす。
- 7月21日 看護師1名、調整員1名出発 (8/7帰国)
- 8月1日 看護師1名出発 (8/16帰国)
- 8月2日 バム市にてダリジャニ氏と用地に関する第二合意書を交わし、用地の確定。
- 8月5日 調整員1名出発 (8/19帰国)
- 8月9日 仮設ハウス“コネックス(Connex)”発注依頼をテヘランのポルタキャラバン社へ依頼。
- 8月11日 ダリジャニ氏と新用地を視察。整地工事をイラン側で進めることを確認。
- 8月12日 医師1名、看護師1名出発 (8/26帰国)
- 8月14日 ポルタキャラバン社へ一部支払。正式契約を結び、4台のコネックス製造に取り掛かる。
- 8月20日 整地工事開始の連絡を受ける。
- 8月22日 調整員1名出発 (9/5まで契約)
- 9月14日 3台がテヘランより到着。
- 9月15日 最後の1台が到着。
- 9月21日 電気配線、水道配管工事着工開始。
- 9月30日 Zone5アーバンヘルスセンター仮設診療所全工事完了、イラン保健省へ正式引き渡し完了。



新しい土地の整地工事



コネックス到着

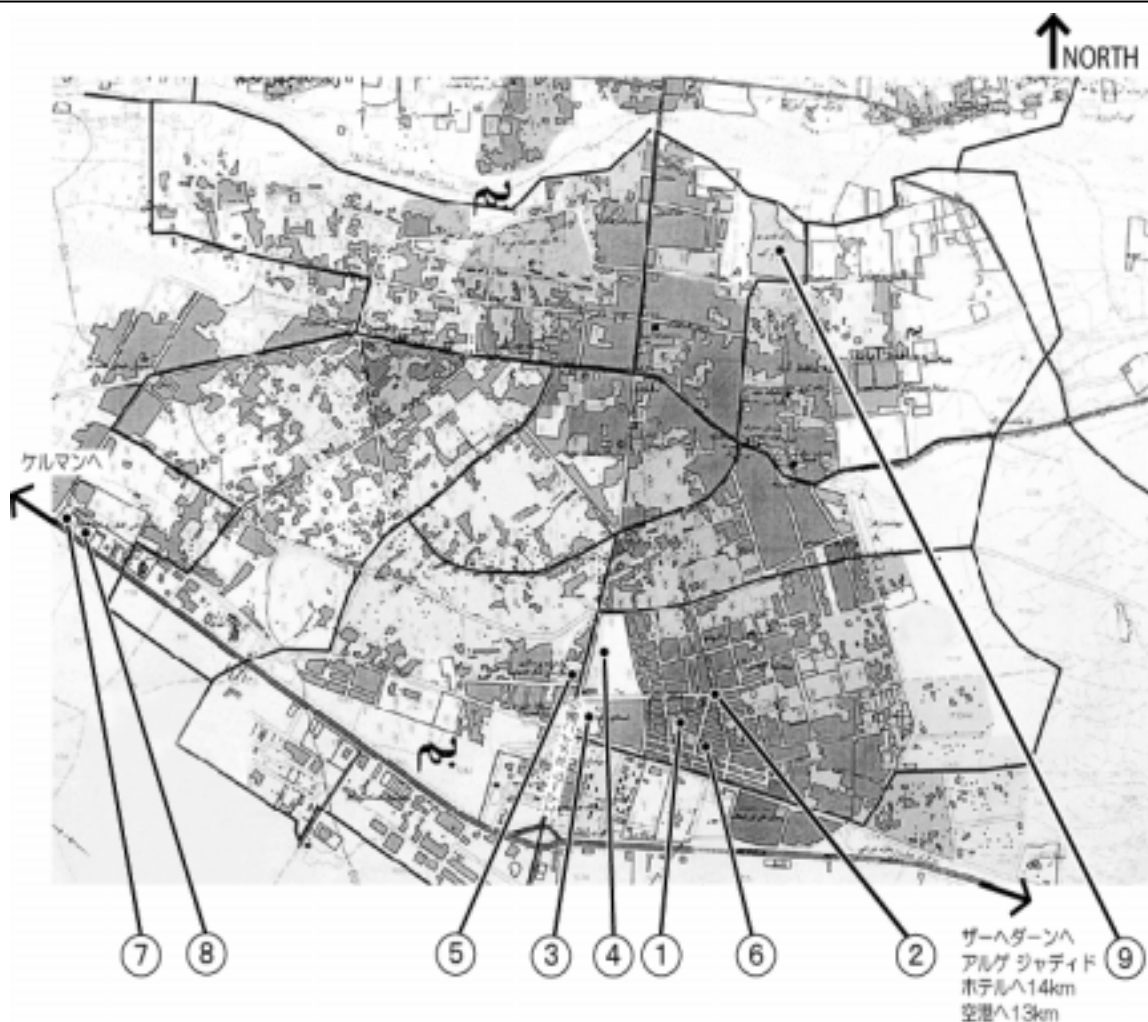


深夜に渡り続いた工事



新Zone5アーバンヘルスセンターの図面

バム市内・主要位置関係図



② ザーヘダーンハ
アルグ ジャavid
ホテルへ14km
空港へ13km

新Zone5アーバンヘルスセンター、旧Zone5アーバンヘルスセンター、国連キャンプ(WHO、BAFIA、諸NGO)、テヘラン市評議会バム駐在事務所(ダリジャニ氏)、エマームホメイニ病院(イラン保健省アバシ医師)、チャイルドケアセンター(CODE主宰)、アフラトニアン病院、アザディホテル、アルゲバム

～心電計のドネーションについて～

皆様からご支援頂きましたバム寄付金により、4台の心電計を購入し、震災後医療器材が不足しているバム周辺の4つの診療所にこれらを供与しました。イラン保健省からは、HuMAの迅速な対応と供与に対して、感謝の言葉を頂きました。

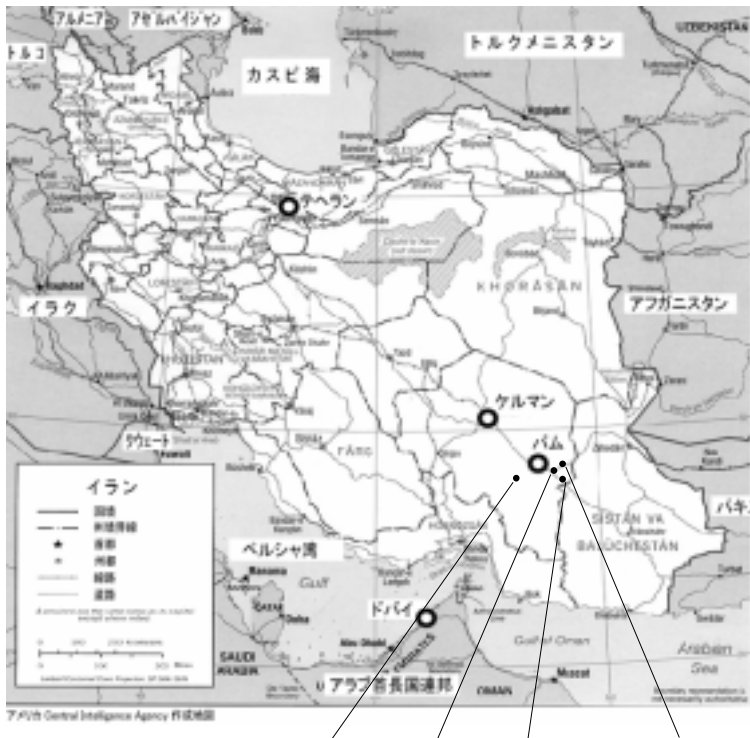


写真 ROSTAM-ABAD医院 FAHRAJ 医院
RIGANヘルスセンター DehBakri医院
RIGANヘルスセンターの医師と看護師



提供した心電計セット



供与先へ向かう道中(バム市外)



FAHRAJ 医院



DehBakri医院



心電計を手渡す林看護師

～看護師 林 晴実さんのイラン活動日記が、エマージェンシーナースィングに2月から連載～

リン ハルミ

7月と9月に2回イランにて活動された林 晴実さん(看護師)の、活動中に綴った日記が看護雑誌 "エマージェンシーナースィング"(2005年より"エマージェンシーケア"に名称変更)に2月から連載されることとなりました。林さんの描くイランの人々の習慣や、ミッションの大変さがとてもユーモアのある文章で書かれています。

(林さんの日記より-7月21日出発の日: "いよいよ18日間のイラン行きに出発する。夜羽田空港へ。イランでの厳しい衣服の制限を守るべく、おばちゃん風のダボツとしたワンピース様室内着の下に更にズボンをはき、そしてスカーフという真夏にありえない姿で埼玉を出る。もう自分の中では中東気分全開。膝までである上着やシャツなど日本には滅多にないので、ワンピースで代用もやむを得まい。そういう格好をすると単純なもので、奥ゆかしい神秘的な中東の女性になった気分がしてくる。(林 晴実)"

イランバム地震保健医療復興支援募金の御礼

イラン・バム保健医療復興支援活動への募金に御協力頂きまして誠にありがとうございました。7月～11月初旬迄にて、88名の方々より合計 ¥988,606の御寄付を賜りました。皆様の御支援を心より 御礼申し上げます。

バム支援費用の詳細につきましては、ジャパン・プラットフォームへの報告が終了後ご寄付賜りました皆様へ御案内させていただきます。

御支援頂きましてありがとうございました



HuMA災害看護中級研修が開催された。(10月9日～11日)

今年度の災害看護中級研修(3日間コース)が、台風直撃の10月9日から日本赤十字武蔵野短期大学にて開催されました。悪天候にもかかわらず全国から集めた受講生は総数23名で、全員無事研修を修了されました。研修では災害と疾病構造、災害とストレス、災害復興期の保健衛生と看護、災害外科等の講義をはじめ、鶏肉を使った縫合の実習や、模擬患者を使った総合演習が実施されました。



災害看護中級研修 - 実習風景

HuMAが杉並区から医療用ケースの譲渡を受ける。(10月25日)

杉並区のご厚意で、医療資器材(約30ケース分)及び空のジェラルミンケース、合計80個分を無償譲渡で頂くことになりました。今後は必要な資器材をこれらから選定し、また不足する部分を新規に追加しなければなりません。今後のHuMA医療チームの派遣に際して、十分に活用できるよう準備を整えてゆきます。

第7回アジア・太平洋災害医学会(APCDM)が開催された。(10月30日～11月1日)

上海で開催された第7回アジア・太平洋災害医学会では、HuMA会員の医師、看護師らの積極的な演題発表がありました。日本医科大学山本保博教授(HuMA副理事長)をはじめ、二宮医師、小井土医師、浅井医師、甲斐医師、石井看護師、高田看護師、合計7名のHuMA会員が国際学会の場に積極的に参加・発表しました。

『新潟県中越地震』支援活動(10月29日)

平成16年10月23日(土)午後17:56、新潟県中越地方にて震度6強、M6.8の地震が発生しました。阪神淡路大震災以来の国内大規模地震災害でした。発災後直ちに、二宮宣文医師(HuMA理事)は、日本医大医療チームとして現地へ出動、また大友康裕医師(HuMA理事)も、国立病院機構 災害医療センター医療チームとして現地へ出動し、それぞれ十日町市、小千谷市の病院で超急性期の災害医療支援に携わりました。

HuMAとしては、二宮・大友両医師の報告を受け、またその後の被災者救護活動の状況をみながら支援を模索しておりましたが、協賛会社から中型の良質なエアートントや簡易ベッドの無償供与の申し出もあり、10月29日に十日町へ機材を搬入して、十日町高校グラウンドでのテント設営や十日町病院へのAED供与を実施しました。以下に十日町高校グラウンドでの供与資器材の設営風景を示します。グラウンドでは、日中100名～150名、夜間400名～500名近くの避難住民が存在しました。

供与した資器材: エアートント1張、簡易診療所ベッド5台、簡易トイレ4式、暖房機2機、AED1台



十日町市役所(災害対策本部)



十日町高校グラウンドに車両ごと避難



体育館前に設置されたエアートント



テント内診療用ベッド



HuMA資器材供与先: 十日町市、十日町病院

ただいまの会員数
208名(内賛助会員35名)
 (2004年11月現在)

発行 = 特定非営利活動法人災害人道医療支援会
 連絡先 = サポート事務局 〒111-0051東京都台東区蔵前1-3-11大東紙ビル2F
 TEL/FAX: 03-3866-8988 Email: info@huma.or.jp ホームページhttp://www.huma.or.jp